

栄区避難場所マップ (風水害編)

※このマップは横浜市が作成する「浸水ハザードマップ(栄区)」を兼ねています。

栄区避難場所マップ(風水害編)の使い方


スタート 「1 情報の入手方法と日頃からの備え」をご覧ください。 浸水想定区域以外の方も、日頃から浸水に備えておくことが重要です。

あなたのお住まいや職場で浸水が発生するおそれはありますか?
 「洪水ハザードマップ」(河川氾濫による浸水)
 「内水ハザードマップ」(下水道や水路からの浸水)の浸水想定区域を確認しましょう。

「洪水ハザードマップ」「内水ハザードマップ」の浸水想定区域となっている方
 ⇒ 「2 内水氾濫と洪水(河川氾濫)の発生について」をご覧ください。

マイ・タイムラインを作成しよう

マイ・タイムラインとは、台風や大雨の水害等、これから起こるかもしれない災害に対し、一人ひとりの家族構成や地域環境に合わせて、あらかじめ時系列で整理した自分自身の避難行動計画です。



1 情報の入手方法と日頃からの備え

災害が発生する危険性が高まり、避難する必要が生じた場合に、横浜市は「高齢者等避難」「避難指示」のほか「屋内での安全確保措置」の指示を発令します。

自動配信されるもの(PUSH型)

- **横浜市防災情報Eメール 要事前登録**
あらかじめ登録したパソコン・携帯電話に防災情報等が配信されます。
- **防災アプリ 要事前登録**
「Yahoo! 防災速報」アプリをインストールしていただくことで、横浜市からの防災情報等をスマートフォン等で受信できます。アプリをインストール➔
- **ファックス**
聴覚障害者の方の自宅(要事前登録)、高潮及び洪水浸水想定区域内の要援護者施設等の事業所に配信します。
- **緊急速報メール**
緊急速報メールに対応した携帯電話に配信されます。
- **親水拠点警報装置**
屋外スピーカーからの音声放送やサイレンにより、災害発生時の危険性や避難情報等をお知らせします。
- **緊急警報放送**
テレビ・ラジオ等から警報音を発し、重要かつ緊急な災害情報を放送します。
- **広報車等による広報**
状況に応じて、必要な地域へ広報車が出勤します。また、職員を派遣したり、消防局ヘリコプターを出勤させることもあります。



自身で情報収集するもの(PULL型)

- **ホームページ**
横浜市 防災情報
気象警報や河川の水位、潮位等を確認することができます。
横浜市 防災情報 検索
- **レインアイよこはま**
雨量データ等を確認することができます。
レインアイ 検索
- **降水ナウキャスト**
現在の雨雲の動きや今後の動きを確認することができます。
ナウキャスト 検索
- **横浜市トップページ(緊急情報)**
- **Twitter(横浜市防災ツイッター) @yokohama_saigai**
- **テレビ** ● **ケーブルテレビ** ● **データ放送**
- **tvk(テレビ神奈川) データ放送** ● **ラジオ** ● **コミュニティFM放送**

栄区避難場所マップ(風水害編)で自宅と避難場所を確認しよう

- 自宅付近が浸水したときにどのくらいの水深になるかを確認しましょう。
- 自宅から避難場所までの複数の道順や方向を、ハザードマップに書き込みましょう。鉄道や道路を渡れる場所を確認しましょう。
- なお、災害の状況により、開設する避難場所は異なります(ハザードマップ参照)。避難する際は、市・区ホームページ等で開設している避難場所を確認してください。
- 地域では、このハザードマップを活用した訓練を行い、災害時の適切な行動につなげましょう。



避難時の持ち出し品を確認しよう

- 避難時の持ち出し品は日頃から準備し、すぐに持ち出せるようにしておきましょう。
- 持ち出し品はできるだけ少なくしましょう(ラジオ、飲料水、懐中電灯、医薬品、ベビー用品、マスクなど)。また、リュックサックなど、両手があくものに収まる程度にしましょう。
- 避難場所には食料、水、タオルなど、必要なものを持参しましょう。



側溝や雨水ますを点検しよう

- 側溝や雨水ますをふさがないようにしましょう。
- 雨水ますの吸い込み口が落ち葉やごみで詰まると、道路浸水などの原因になります。
- 雨水ますやL型側溝の上に車乗り入れブロックなどを置かないようにしましょう。



浸水に備えよう

- 家にあるもので浸水を防ぎましょう。土のうやプランター、家庭にあるごみ収集袋などを利用した水のうなどを使って浸水を防ぐことができます。
- 大雨の際には、洗濯機、トイレ、風呂場の排水口など思わぬところから下水が逆流することがあります。排水口を水のうなどでふさぎましょう。

家庭でできる浸水防止対策の一例

水のうと長めの板などを組み合わせて、浸水を防ぎます。

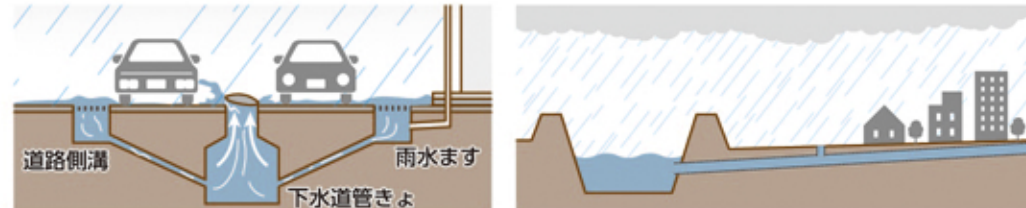
水のうは段ボール箱に詰めることで、強度が増します。

プランターをならべ、レジャーシートで包み浸水を防ぎます。

2 内水氾濫と洪水(河川氾濫)の発生について



宅地に降った雨は雨水ますへ、道路に降った雨は道路側溝などに集まり、下水道や水路等を通して河川に排水されます。



大雨の時はこんな点に注意しよう

集中豪雨に注意しよう 突発的かつ局地的な集中豪雨に備えて、ふだんから雨の様子をチェックしておきましょう。

やや強い雨 1時間に10～20mmの雨 傘をさしてもぬれ、足元がぬれる。長く続く時は注意が必要。	強い雨 1時間に20～30mmの雨 傘をさしてもぬれ、足元がぬれる。長く続く時は注意が必要。	激しい雨 1時間に30～50mmの雨 傘をさしてもぬれ、足元がぬれる。長く続く時は注意が必要。	非常に激しい雨 1時間に50～80mmの雨 傘をさしてもぬれ、足元がぬれる。長く続く時は注意が必要。	猛烈な雨 1時間に80mm以上の雨 傘をさしてもぬれ、足元がぬれる。長く続く時は注意が必要。
---	---	--	---	---

内水氾濫の発生



内水ハザードマップとは?
内水氾濫によって想定される浸水区域や浸水深などの情報をまとめたマップです。また、この内水ハザードマップは、河川の堤防を越えて水があふれることも表現していますが、堤防の決壊は想定していません。洪水ハザードマップも併せてご覧ください。



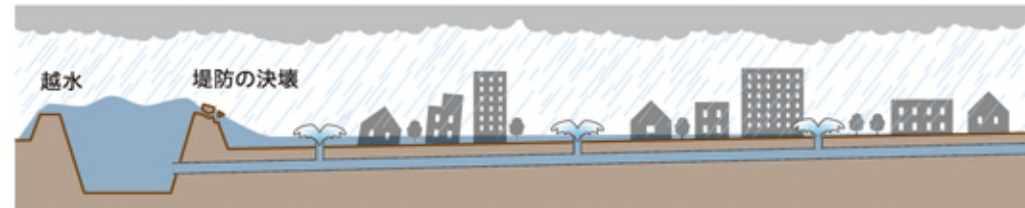
横浜市では1時間あたりの雨量が50mm～60mmに対応する下水道整備を進めています。内水ハザードマップは、下水道の能力を超える大雨に対して、市民の皆様の日頃からの備えや対策をとっていただくために作成したものです。

想定降雨 **1時間で153mmの降雨**

洪水(河川氾濫)の発生



洪水ハザードマップとは?
洪水によって想定される浸水区域や浸水深などの情報をまとめたマップで、浸水が想定される区域の皆様に速やかに避難していただくために作成したものです。



24時間で632mmの降雨(境川水系)

想定降雨 **24時間で632mmの降雨(境川水系)**

避難の考え方

●身の危険を感じる場合は避難を開始してください。

安全な場所へ避難(水平避難)
 (避難場所、近くの高地、土砂災害警戒区域外の親戚の家など)
 ※すべての避難場所を開設するわけではありません。(ハザードマップ参照) 避難する前にどの避難場所が開設されているか、市・区ホームページ等で確認してください。

頑丈な建物の2階以上または、近隣の高い建物へ避難(垂直避難)
 浸水深が浅くても水の流れることによって歩行が困難となります。無理をして屋外へ避難せず、高所へ避難をしましょう。

建物内の安全な場所で待機(屋内退避)
 (夜間や危険が差し迫っている場合など、屋外へ避難することができない場合)

隣近所と声をかけ合おう
 ご高齢の方、子ども、障害のある方などは避難に時間を要するため、早めの避難が必要です。地域の皆さんで協力し合って安全に避難しましょう。

安全な経路で避難しよう
 河川沿いや急傾斜地(崖)沿いの道は避けて避難しましょう。大雨により、側溝やマンホールの蓋が外れている場合があるので、転落しないよう十分に注意して、近寄らないようにしましょう。

地下街・地下施設の浸水は危険です
 浸水の危険性があると感じたときは、速やかに地上階に避難しましょう。

3つの質問でわかる!わたしの避難行動

Q1 住んでいる地域は、浸水想定区域や土砂災害警戒区域ですか?

はい → **在宅避難**
 危険の少ない地域であれば、在宅で待機するも立派な避難行動です。「もしも」に備えて水平避難の準備もしておきましょう。

いいえ → **水平避難**
 雨や風が強いうちに、危険の少ないエリアにある安全な場所に避難しましょう。複数の避難先を検討してください。

Q2 建物は頑丈ですか? マンション居住ですか?

はい → **垂直避難**
 少ない建物の2階以上や、近くの高い建物に避難します。既に浸水が広がっていて、屋外への避難が危険な場合にも有効です。

いいえ → **水平避難**

Q3 ハザードマップの浸水深より高い場所や階に避難できますか?

はい → **垂直避難**

いいえ → **水平避難**

避難情報がでたら～避難情報が発令されていなくても、身の危険を感じる場合は、速やかに避難を開始してください～

警戒レベル	発令要素	とるべき行動	避難情報(横浜市)	気象情報(気象庁) 水位情報(神奈川県)
警戒レベル5	緊急安全確保	【命の危険 直ちに安全確保!】 ●災害が発生・切迫しており、命を守るための最善の行動をとる。	緊急安全確保	【警戒レベル相当情報】 ●気象情報、水位情報が発表されたことにより、直ちに避難指示が発令される場合があります。
警戒レベル4	避難指示	【危険な場所から全員避難】 ●直ちに身の安全を確保できる場所へ避難する。(1)情報の入手方法と日頃からの備えの「避難の考え方」もお読みください ●避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内より安全な場所に避難する。	避難指示	土砂災害警戒情報等 氾濫危険情報
警戒レベル3	高齢者等避難	【危険な場所から高齢者等は避難】 ●避難に時間を要する人(ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は、避難場所へ避難を開始する。 ●その他の人は、家族など連絡、持ち出し品の用意など、避難の準備を開始するとともに、危険だと思ったら早めに避難する。	高齢者等避難	大雨警報(土砂災害・浸水) 洪水警報等
警戒レベル2	自らの避難行動の確認	【自らの避難行動の確認】 ●避難に備え、ハザードマップ等により自らの避難行動を確認する。 ●避難情報の把握と、避難手段の確認をする。	—	大雨・洪水注意情報 氾濫注意情報
警戒レベル1	災害への心構えを高める	【災害への心構えを高める】 ●防災気象情報等の最新情報に注意する。	—	早期注意情報

※警報等が解除されても、河川の水位情報等には注意してください。